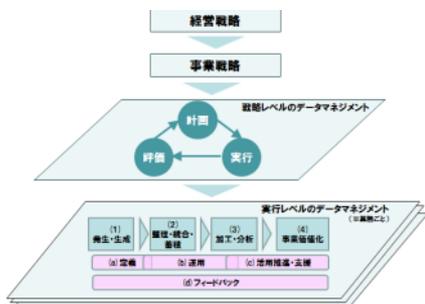


# 2013年度JUAS研究活動成果報告会 — データマネジメント研究会 —



2014年4月24日

データマネジメント研究会

海老原 吉晶(オムロン株式会社)

# 2013年度データマネジメント研究会の活動概要

---

## 《実施期間》

2013年5月16日 ～ 2014年3月15日

## 《研究テーマ》

- (1) データマネジメントとは何をどうすることなのか？
- (2) データマネジメントの組織の運営方法
- (3) データ利活用を現場に定着させる方法
- (4) データ分析技術と分析実務
- (7) データ利活用力簡易診断手法

## 《主な活動実績》

- ・定例研究会 : 7回
- ・事例発表 : 5社
- ・合宿 : 2回 (軽井沢合宿十日帰り合宿)
- (・監事会 : 9回)
- \* その他 分科会多数

# 研究会 活動実績

定例研究会 : 7回      合宿 : 2回  
事例発表 : 5事例

\* 他にもスピンオフ企画の活動多数

		研究会(場所)	事例発表・イベント
5月16日	木	第1回定例研究会	—
6月14日	金	合宿(第2回研究会)	—
6月15日	土	合宿(第2回研究会)	—
6月24日	月	定例会は無し	—
7月10日	水	第3回定例研究会(JAL天王洲オフィス)	オムロン海老原
8月19日	月	第4回定例研究会(SAS六本木オフィス)	NTTドコモ白川様
9月5日	木	JUASスクエア	—
9月6日	金	JUASスクエア	クローズアップセッション
9月12日	木	第5回定例研究会	スクエアFB&スピンオフ企画立案
11月14日	木	第6回定例研究会	本田技研 有吉様
1月9日	木	第7回定例研究会	大阪ガス 河本様
2月27日	木	第8回定例研究会	JFEシステムズ 森様
3月15日	土	第二合宿(SAS六本木オフィス)	—
4月24日	木	JUAS研究活動成果報告会	—

# 2013年度 データマネジメント研究会の運営方針

## 1. せっかく異なる業種・業界のメンバーが集まるのだから・・・

### お互いに新たな知見と気づきを生み出しましょう

- ・研究会内での事例発表や情報交流の機会を沢山持てるようにします。
- ・他の団体(JDMC)との交流も積極的に進めます。

全員参加

55名が一緒に活動  
する！

## 2. データマネジ

### それぞれの“答

- ・昨年度の研究成果を活かして、より多く、使いやすくなるように  
解きほぐしましょう。
- ・深掘りと共有を繰り返して『迫力あるリアリティ』と『応用可能な汎化』を目指します。

## 3. ものすごく忙しい皆さんに集まっていたただくのだから・・・

### 効果的な活動を効率的に進めていきます

- ・分科会による深耕と定例会による共有の実施にご協力ください。





# 軽井沢合宿での研究会“垂直立ち上げ”

6月14～15日 軽井沢プリンスで行われた合宿で、データマネジメントに関わる議題を全員参加でディスカッションし、メンバーの課題認識の共有し一気に議論を深めました。





# 2013年度 データマネジメント研究会スピンオフ企画

No.	テーマ名	トピック例	人数
1	データマネジメントとは何をどうすることなのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データマネジメントの定義・スコープ・目的・ゴール</li> <li>・プロセス・体制など具体的に進めていくには</li> <li>・データの保存期間など</li> <li>・言葉の統一</li> </ul>	11
2	データマネジメントの組織の運営方法 －体制・組織・人材－	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データマネジメント組織の役割</li> <li>・データマネジメント組織の体制・運用</li> <li>・データマネジメント組織の人材と育成プロセス</li> </ul>	11
3	データ利活用を現場に定着させる方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BIツール／DWHの活用促進</li> <li>・KKDとデータ利活用</li> <li>・データ活用リテラシー(文化・風土、個人のスキル)</li> </ul>	13
4	データ分析技術と分析実務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定のためのデータ活用(不足データ収集、予測データ)</li> <li>・データの見せ方</li> <li>・オープンデータ活用</li> <li>・データ構造</li> <li>・業務に合った分析手法とは</li> </ul>	17
5	経営・上位マネジメントへの 説得マニュアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営者、部門長など予算執行の意思決定者への説明</li> <li>・導入効果の見せ方</li> </ul>	－
6	プライバシー保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護すべき内容・基準</li> <li>・保護のために何ができるか</li> </ul>	－
7	データ利活用力簡易診断手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が社のデータ利活用のあり方・目指す姿の描き方</li> <li>・組織が持つデータ利活用能力診断</li> <li>・研究会参加有志企業によるトライアル分析</li> <li>・情報活用能力のレベルアップ施策ポイント</li> </ul>	9

# スピノフ企画①の成果

- ・参加者: 11名
- ・テーマ: データマネジメントとは何をどうすることなのか?
- ・会合2回
- ・サイボウズとマインドマイスターを使ったオンネットディスカッションを実施

The screenshot displays a web application interface with a discussion thread on the left and a mind map on the right. The discussion thread is titled "コメントする" and shows two posts from participants 吉田 健二 and 石田 篤史. The mind map, titled "DM研チーム1", is a complex diagram with a central node "DM研チーム1" and several branches. The branches include "論点" (Key Points), "プロセスからのアプローチ" (Approach from Process), "データからのアプローチ" (Approach from Data), "DMのスコープ" (DM Scope), "サイボウズLive" (CybozuLive), and "簡単な使い方" (Simple Usage). The mind map contains various notes and questions related to data management, such as "データの精度を高める(ドコモ)", "データの整備をスコープにする(受)になる", and "データの整理をスコープにする(受)になる".

# スピノフ企画②の成果

- ・参加者: 11名
- ・テーマ: データマネジメントの組織の運営方法  
—体制・組織・人材—
- ・会合5回
- ・アウトプット資料: 30ページ

### 3. 2. 1 どう育成するか?(組織)

1. 立ち上げ時

既存の情報システム部門の要員から選出  
 既在している情報システム部門を編制  
 必要と懸われるスキルを有する要員を編制

2. 推進時

必要に応じて現場へ出向く

3. 発展時

推進時の経験をもとに、活動範囲を

Copyright (C) 2014 JUAS All rights reserved

### 4. 2. 2 組織パターンの判断項目(立ち上げ)

立ち上げ	
経営トップからのアプローチ (外)	得られる 得られない
会社の規模感 (外)	大規模 中小規模
設置する組織の位置 (外)	経営直下(新設) 情報システム部
素養のある要員の引き抜き (外)	容易 困難
要員のスキル育成環境 (内)	良い 悪い

(備考) 要員: 集める要員

Copyright (C) 2014 JUAS All rights reserved

### 4. 3. 2 組織パターンの判断項目(推進)

推進	
現場と組織との連携(関係) (外)	強い 弱い
効果が得られそうな現場 (外)	有り 無し(見込み薄)
要員の対応形態 (内)	専任 兼任
要員のヒューマンスキル (内)	高い 低い
要員のレベル(経験)差 (内)	小さい 大きい

(備考) 要員: 集めた要員

Copyright (C) 2014 JUAS All rights reserved

### 4. 4. 2 組織パターンの判断項目(発展)

発展			
組織の拡張形態 (外)	自部門を拡大	○	△
	現場へ分散	×	○
現場での抵抗 (外)	小さい(抑制可)	○	○
	大きい	○	△
必要コストの回収方法 (外)	主に社内配賦	○	○
	主に活動にて	○	△
組織内の知識やノウハウの量 (内)	多い	○	○
	少ない	×	△
要員スキルの育成レベル (内)	高い	○	○
	低い	○	×

(備考) 要員: 入れ替えがある場合は、新たな要員を含む

活動する組織から見て...  
 内: 内的要因(強み、弱み)  
 外: 外的要因(機会、脅威)

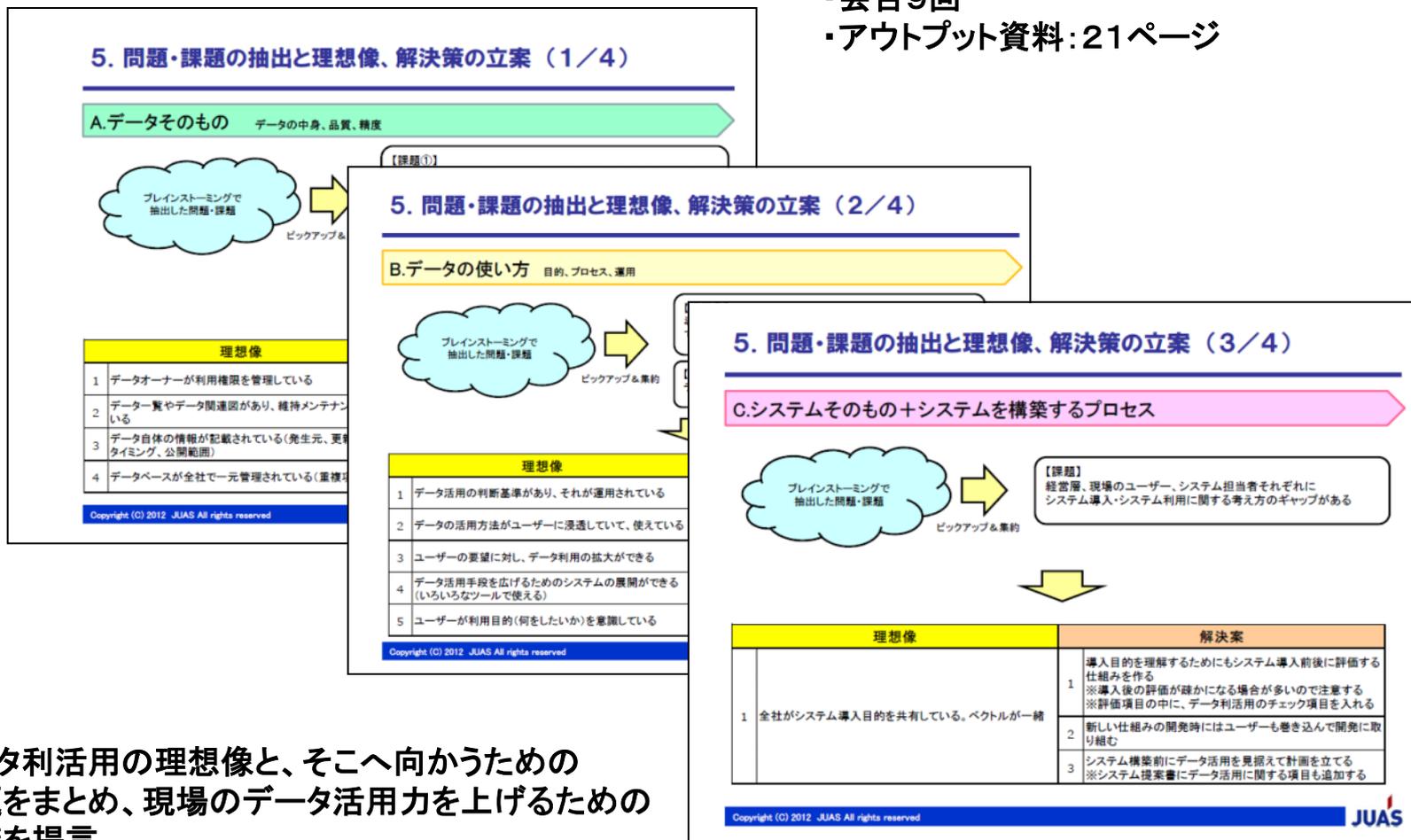
○: 影響なし(少し?)  
 △: 何らかの影響あり  
 ×: 実施困難(無理?)

Copyright (C) 2014 JUAS All rights reserved

・データ利活用 のための  
 体制・組織・人材について「立ち上げ」  
 「推進」「発展」の3つのフェーズで分析、組織・  
 体制の作り方を提案

# スピノフ企画③の成果

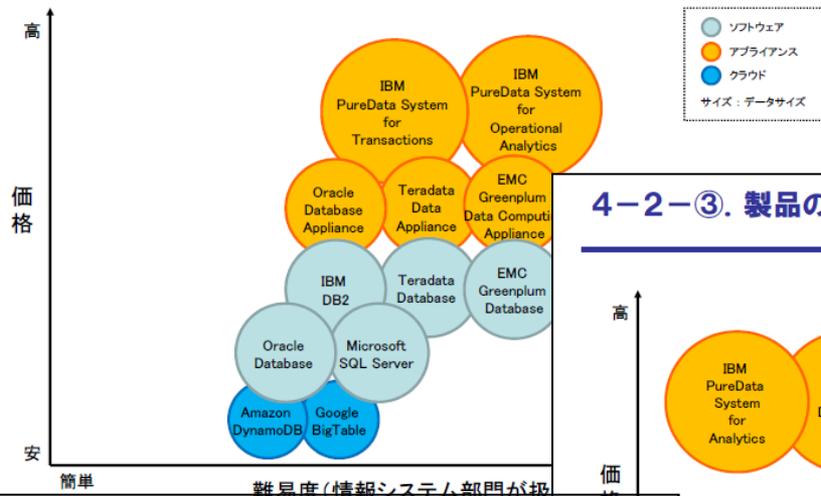
- ・参加者: 13名
- ・テーマ: データ利活用を現場に定着させる方法
- ・会合9回
- ・アウトプット資料: 21ページ



- ・データ利活用の理想像と、そこへ向かうための課題をまとめ、現場のデータ活用力を上げるための施策を提言

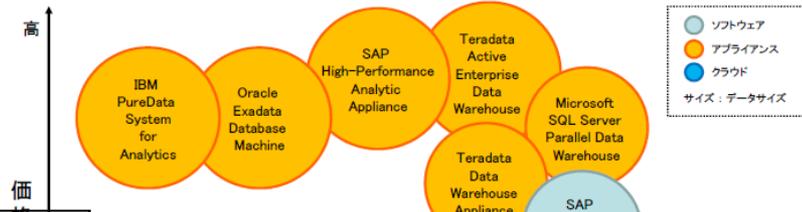
# スピノフ企画④の成果

## 4-2-①. 製品の特徴: 商用データベース(バブルチャート)



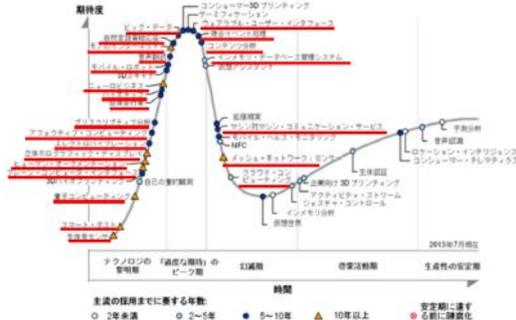
- ・参加者: 17名
- ・テーマ: データ分析技術と分析実務
- ・会合9回
- ・アウトプット資料: 69ページ
- ・オープンデータの調査、データマネジメント製品と技術の調査・分析・評価を実施

## 4-2-③. 製品の特徴: DWH(バブルチャート)



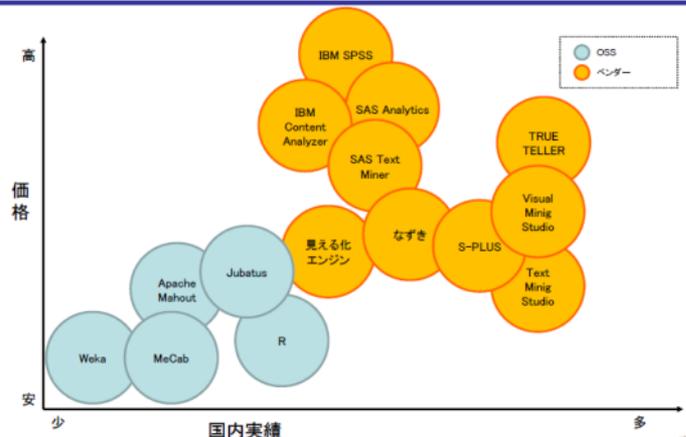
## 5-2-③. 技術動向 I ビッグデータに関わる技術動向

- ・毎年公開している、ガートナーの技術のハイプサイクルにおいて、黎明期・幻滅期における技術要素の多くがビッグデータに関わる技術となっている。

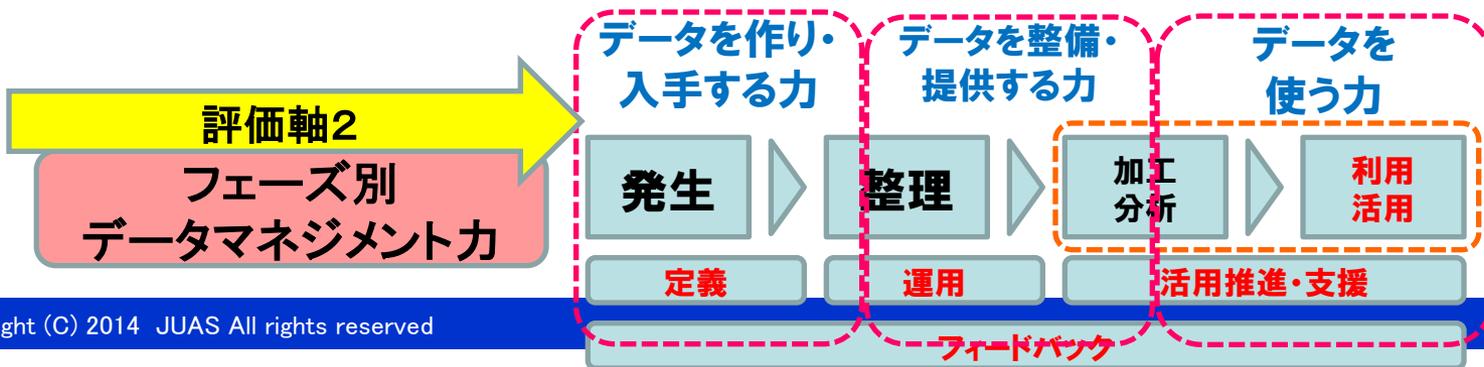
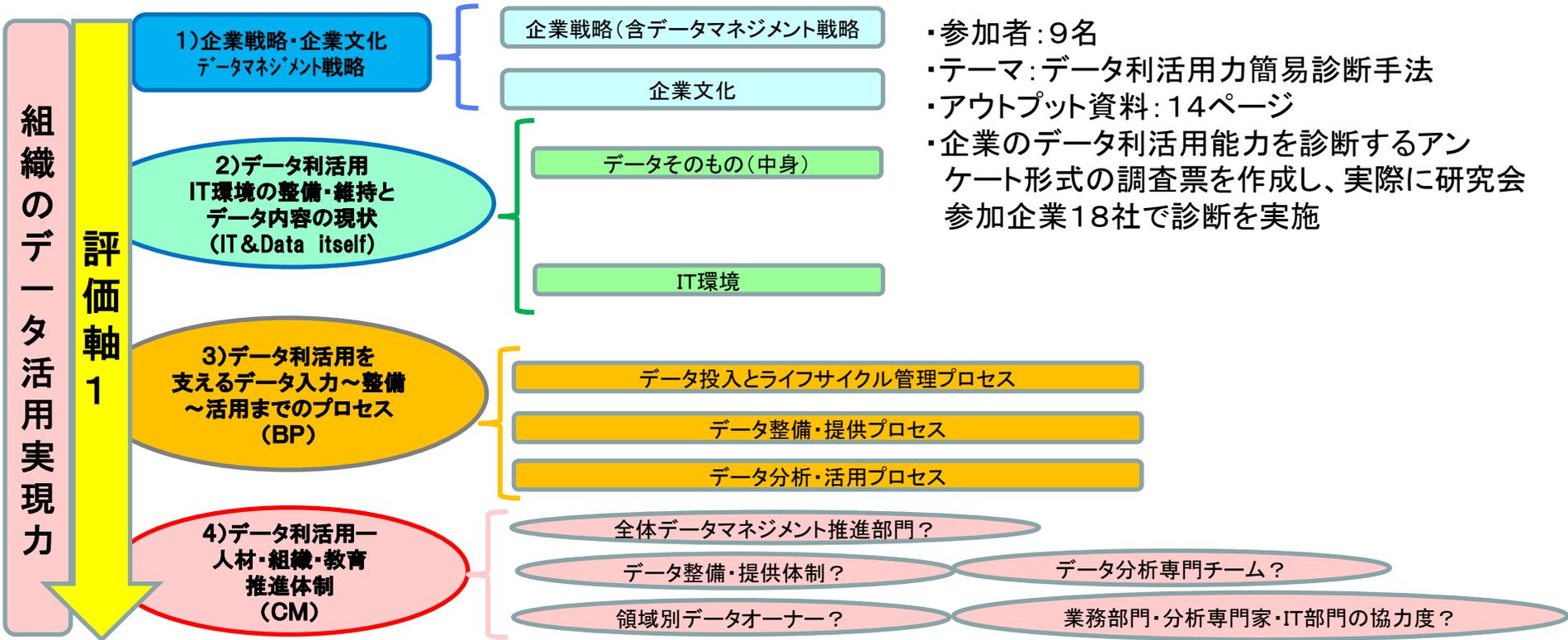


- ・現在業務別動向結果には出てこない「技術要素」が、今後企業が発展していくためのキーとなっていくと想定される

## 4-2-④. 製品の特徴: 分析(バブルチャート)



# スピンオフ企画⑦の成果(1/3)



# スピノフ企画⑦の成果(2/3)

## 2-1) 組織の『データ活用能力診断』-39の質問デザイン

大分類: 100点満点	中分類	小分類	質問 NO
1) 企業戦略と 企業文化 15点	1) 企業戦略	1) 1-1 データマネジメント戦略実現度	1
		1) 1-2 各戦略(企業・事業・IT)とデータ分析・利活用テーマの 連携度	2
		1) 1-3 データ利活用予算配布の適切度	3
2) データ内容 と IT 環境 30点	2) 1 データ 内容	1) 2-1 データ発生から データ活用に至る 業務プロセス & ルール (ナレッジプロセス)	17
		2) 1-2 データ統合の メタデータ管理	18
		2) 1-3 データ辞書作 社内外の報告	19
		2) 1-4 ソーシャルデ ータの収集・管理	20
		2) 2-1 基幹系システ ム	21
		2) 2-2 分析用BIツ ール	22
		2) 2-3 DWH実現の 実現度	23
		2) 2-4 多角的・横断 ハウスの導入	24
		2) 2-5 データ・情報 セキュリティ	25
		2) 2-6 セキュリティ 対策	26
		2) 3-1 全社・全部門 におけるデータ 利活用の定着度	27
		2) 3-2 データを活用 するビジネス・ アクションの定着度	28
		2) 3-3 データ分析・ 活用教育実施 度	
		2) 3-4 データ分析・ 活用教育実施 度	
		2) 3-5 データ分析・ 活用教育実施 度	
		2) 3-6 データ分析・ 活用教育実施 度	
		2) 3-7 データ分析・ 活用教育実施 度	
2) 3-8 データ分析・ 活用教育実施 度			

## 2-2) 各質問毎に5段階レベル質問をデザイン

(C) JUAS 2014

### 企業戦略と文化

A. 企業内のデータマネジメント戦略について最も当てはまるものを選んで下さい。 記入欄 **3**

- 事業計画を達成するための戦略立案が中心でデータに関する戦略は意識されていない
- 事業計画を達成するための戦略立案の中に情報システム化のテーマはあるがデータマネジメントまでは意識されていない
- 事業計画を達成するための戦略立案の中にデータの収集や分析などがテーマとしてあげられることがある
- 事業計画を達成するための戦略立案においてデータに関する方針が盛り込まれている
- 事業計画を達成するための戦略立案とは別にデータマネジメントに関する中長期的な戦略を立案し具体的な活動と達成状況のモニタリングを実施している

B. 業務課題をデータ利活用で解決することについて最も当てはまるものを選んで下さい。 記入欄 **3**

- 業務課題はそれぞれの業務部門が解決するべきでありデータの利活用と直接の関係はない
- 業務課題を解決するためにデータ分析を活用したいがどのようによればよいかわからない
- 業務課題を解決するためにデータ分析を実施するためのIT環境やツールを揃えているがなかなか投資対効果が現れない
- 業務課題を解決するために仮説を立てデータ分析で検証した結果をビジネス活動に結びつけている
- 業務課題を解決するための道筋として仮説立案、データ分析、ビジネス活動の実施と共に効果測定と検証を行うプロセスが会社全体で共有されている

企業戦略

(C) JUAS 2014

### データ発生からデータ活用に至る業務プロセス&ルール(ナレッジプロセス)

A. データの入力ルールについて最も当てはまるものを選んで下さい。 記入欄 **2**

- データの入力ルールがなく、正確さと精度に欠けるデータがそのまま蓄積され続けている
- データの入力ルールがなく、正確さと精度に欠けるデータを後工程で変更・修正している
- データの入力ルールはあるが、守られているとさえデータが後工程で変更・修正している
- データの入力ルールが守られるよう普及教育やマニュアル整備を行っている
- データの入力ルールが守られるようシステム面で工夫しており、かつルール外のデータを検出し修正するための仕組みが作られている

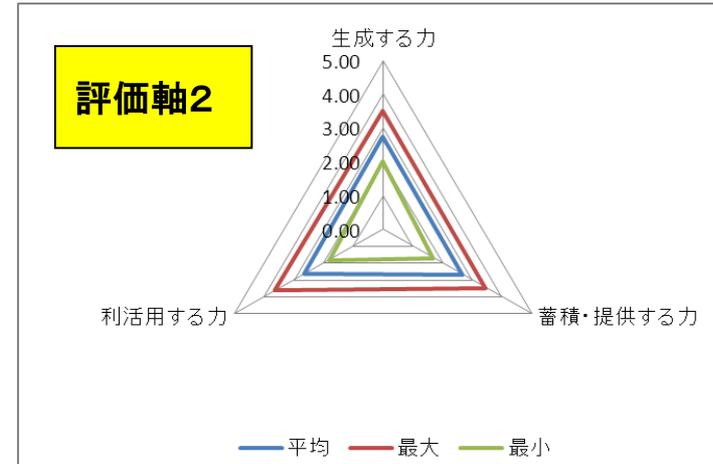
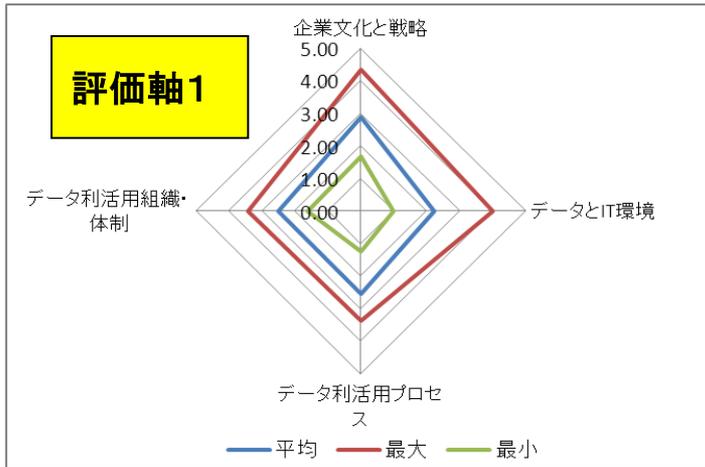
B. データの保存・廃棄ルールについて最も当てはまるものを選んで下さい。 記入欄 **2**

- データの保存・廃棄ルールがなく、データがそのまま蓄積され続けている
- データの保存・廃棄ルールがなく、各現場や個人でデータを蓄積・廃棄している
- データ保存・廃棄ルールはあるが、守られているとさえデータ保存が未管理
- データの保存・廃棄ルールが守られるよう普及教育やマニュアル整備を行っている
- データの保存・廃棄ルールが守られるようシステム面で工夫しており、かつルールが守られるような各種の仕組みが作られている

データ・ライフサイクル管理

# スピンオフ企画⑦の成果(3/3)

## 診断結果の傾向と分析



- ・評価軸1においては「企業文化と戦略」が最も平均点が高く、「データとIT環境」の平均点が低かった。「データとIT環境」においても今後さらなる取り組みが必要と考える。
- ・評価軸2においては各項目概ね2～3.5の間に収束している。

## 診断項目と診断結果への納得度 (受診した方へのアンケート結果)

診断項目

わかりやすい    普通    わかりにくい

納得度

納得できた    普通    納得出来ない

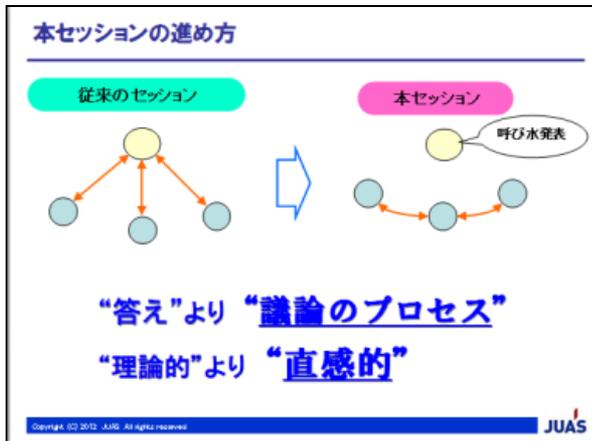
## 診断シート全般に対する意見(抜粋)

- ・ユーザ部門でも回答できるよう設問を工夫してほしい(製造業・IT部門)
- ・選択項目のちょうど中間にあたる状態なのでどちらを選ぶべきか悩んだ(ITベンダ・利用部門)

今後のブラッシュアップが必要!

# JUASスクエア クローズアップセッション

9月6日JUASスクエアにて、データマネジメント研究会 クローズアップセッションを実施し、参加者どうしによるインタラクティブな議論を行いました。



**困っていること**

立場: ユーザー-企業支援  
 領域: データ統合・マスターデータ整備  
 困りごと: 予算がつかない。直接的効果と結びつかず**効果説明**。ビジネスライクに早く、上まってしまう。

**三位一体をつなぐ役割を担う為に**

立場: IT部門  
 領域: IT部門  
 事例: 各工場の各業務部門からニーズを集め、IT部門に委ねられた。業務チームとITチームがある。IT進化スピードにより、今は業務チーム、IT者手はほとんど吸収。B/A的な役割に替えるかもしれない。

立場: 製造 IT部門  
 領域: IT部門  
 前の議論への意見: 三位一体は、必ずしも「つなぐ」役割を担ってなくても良いのでは。各領域のプロがチームになってデュアルカンパニイのイメージで一つのチームでITコラボレーション。コアワークのイメージで実現できないだろうか。

立場: 製造 IT部門  
 領域: IT部門  
 前の議論への意見: IT部門の役割、ベンダーに奪られないようにする。自ら不慣れたユーザーをベンダーとの間に入ってリポートするのが大事

Copyright © 2014 JUAS All rights reserved

# JDMCとの連携

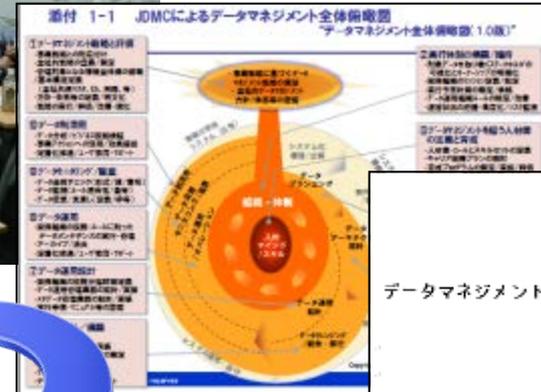
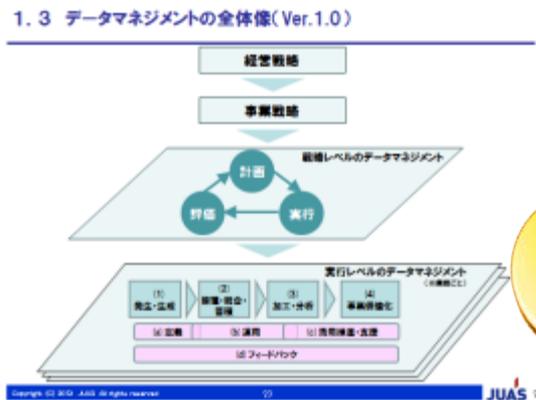
1月24日 JDMCテーマ8メンバーと情報交換会を実施し、お互いの研究成果を相互に発表し、討議を行いました。



**JUAS** 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会  
Japan Users Association of Information Systems

**2012年度 JUAS  
データマネジメント研究会**

研究



データマネジメント概説書 (JDMC版) Ver.1.0

一般社団法人 日本データマネジメント・コンソーシアム  
「データマネジメントの基礎概念を深める研究会」

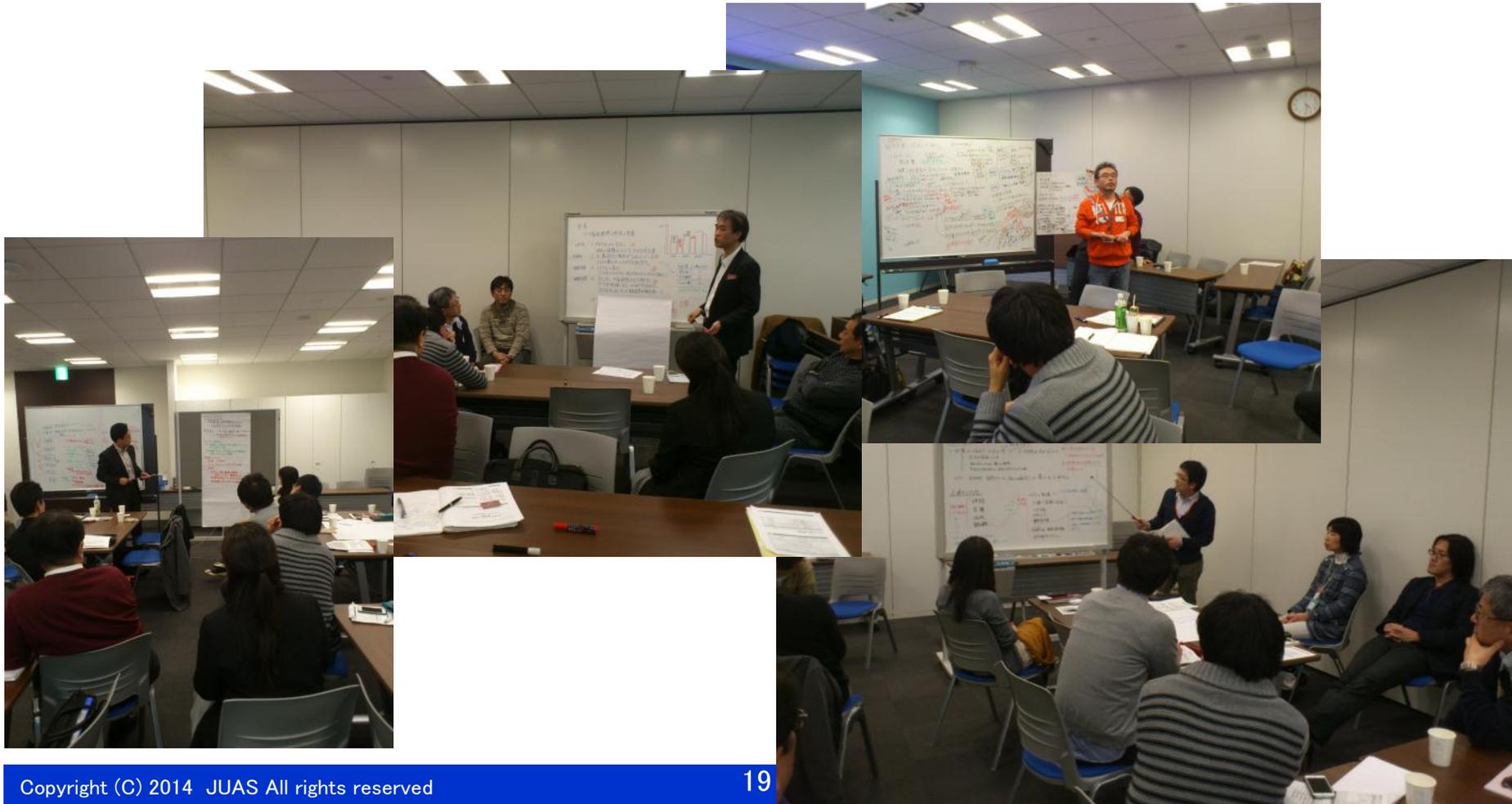
JDMC

日本データマネジメント・コンソーシアム  
Japan Data Management Consortium (JDMC)



## 第2合宿での研究会しめくり

3月15日(土)に、SAS Institute様に会場をご提供いただき、日帰りの合宿を行いました。各スピンオフ企画からのアウトプットを共有するとともに、経営層・上位マネジメントへデータマネジメントの必要性をプレゼンするロールプレイング等、濃い内容を楽しみました。



データマネジメント研究会

第三年度

予告

## 2014年度 研究テーマ案

### 1. スピンオフ企画(案)

- ・データマネジメント組織(管理/活用推進)
- ・データマネジメント成熟度診断ブラッシュアップ
- ・データ品質とデータ性能

### 2. 研究成果レポート作成

2012~2014年度成果物の作成&パブリッシュ

# 2013年度 データマネジメント研究会

ご清聴ありがとう  
ございました

